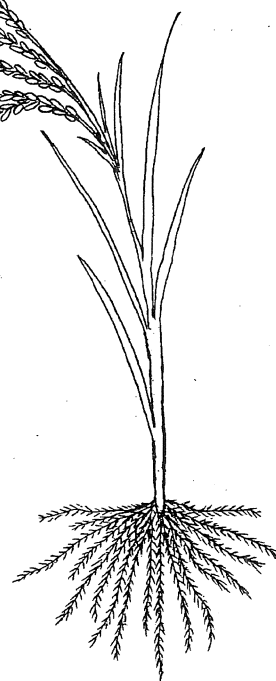
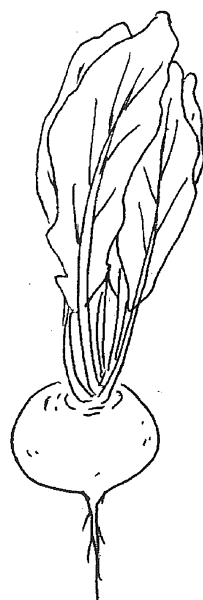
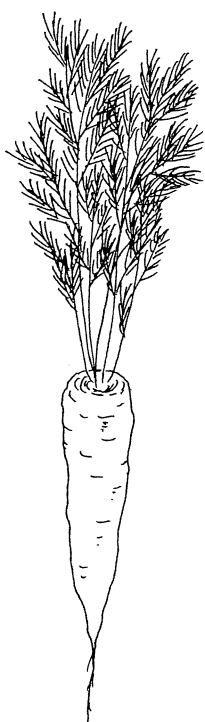
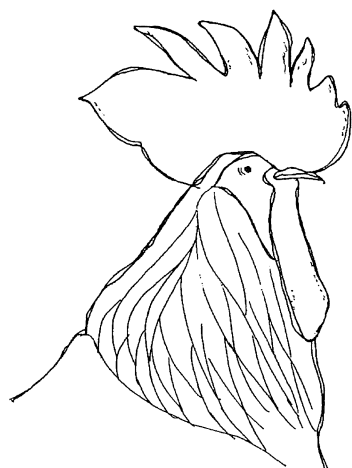


いのちを宿す身体は

土からできた食べものでできている



生活協同組合

熊本いのちと土を考える会

Since 1985

わたしたちの思いとめざすもの

- 消費者と生産者の提携を基本とし、お互いの交流を通して農業理解を深め、顔の見える信頼関係を築きます。
- 地球環境を守るために持続可能な循環保全型農業を続けます。
- 健やかな子ども達の未来のために食の安全と農業の大切さを伝えます。

わたしたちの「提携」

— 必ず生産してもらえる安心、必ず買ってもらえる安心 —

野菜や米の生産者は、化学農薬・化学肥料・除草剤を一切使わない方法で育て、豚や鶏（卵）の生産者は、義務づけられたもの以外は投薬をせず育てているため、安定して農畜産物を生産し続けることはとても難しいことです。それでも、会の生産者が育てた農畜産物を求める消費者のために、生産者は生産活動に励みます。

○ 消費者は、信頼のある農畜産物を買うことができ、食卓を守る安心を得られる。

○ 生産者は、その期待に応えるべく生産に励み、責任をもってお届けする。

そして必ず買ってもらえることが“持続可能な経営”の支えとなります。

このように、お互いの安心を保証しあうつながりを「提携」と表現し、いちばん大切にしています。

野菜

正直野菜

会の生産者は、消費者の「日々の台所を支える」ために、それぞれが多品目の野菜を育てています。消費者は欲しい野菜を必要なだけ選ぶのではなく、その時々で畑で収穫できる野菜をケース（セット）で買うこと、そして買い続けることで、生産者は持続可能な生産活動を行うことができます。

米

ゆきさすターム

お米は、わたしたちの「提携」をよく表しているといわれる「年間予約制」を注文の基本としています。消費者はお米を年間予約注文することで、優先的に注文した分のお米を届けてもらうことができ、生産者は買ってもらえる安心のもと生産活動を行うことができます。

豚

元気豚

生産者が大切に育てた豚のお肉を「余すことなく大切にいただく」。そのために、必要な部位だけを仕入れるのではなく、まるごと1頭を買取る「一頭買い」をしています。野菜やお米もですが、いのちを大切にいただくための工夫です。また、生産者にとっても、まるごと買ってもらうことは、持続可能な生産活動の支えとなります。

熊本の有機農業と「熊本いのちと土を考える会」の歩み

- | | |
|---------|--|
| 1970.11 | ○「新しい医療を作る会」発足
熊本に農業と安全な食を考える組織が発足。 |
| 1975. 3 | ○第1回いのちと土を守る全国大会開催
熊本でこの大会を開催した事をきっかけに産直運動をスタートさせ、
配送・消費者・生産者の組織設立がはじまる。 |
| 1976. 6 | ○(株)熊本有機農産物流センター設立
現生協の前身となる配送部門ができる。 |
| 1977. 7 | ○「いのちと食べものを考える会」設立
消費者の組織ができる。 |
| 1980. 4 | ○「土の会」設立
生産者の組織ができる。 |
| 1985. 3 | ○「生活協同組合 熊本いのちと土を考える会」設立（仮事務所 武蔵ヶ丘）
消費者・生産者と配送部門が連携し、現在の組織ができあがる。 |
| 1991.10 | ○益城町に拠点を構える
配送・事務の拠点を益城町に設立。 |
| 1992.12 | ○有限会社「グリーンファーム熊本」設立 |
| 1994. 6 | ○農業支援基金 設立
有機農業を未来へつなげるための基金を設立。 |

「いのちと土を考える会」の生協とは



[6月の田植え体験イベント]

生活協同組合（生協）とは、組合員ひとりひとりが出資金を出し合い、協同で運営・利用する組織です。

わたしたちの生協は、消費者だけが組合員となる一般的な生協とは違い、生産者も組合員となって互いに支えあう、食を中心にした生協です。

会の運営は、民主的で自主的な活動を大事にしています。

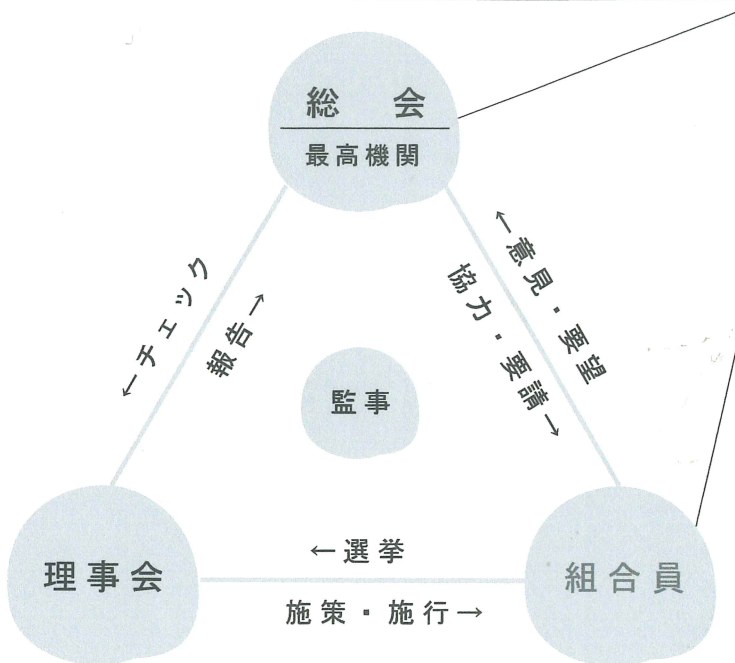
入会後は、お住まいの地域ブロックに所属することになり、

ブロック会の各委員さんを通して、様々な意見を会に反映する事ができます。

（ご自分の所属ブロックについてご不明な方は、事務局へお問い合わせください。

事務局／TEL 096-286-0460）

生協のしくみについて



総会

- 生協の運営に関わる重要事項を決定する最高の意思決定機関です。
- 通常年1回開催し、その年の予算や年間業行事・活動方針、役員の選出などについて話し合い、確認します。

組合員

- わたしたちの会では、「消費者」「事務局」（職員やスタッフ）「生産者」が組合員となり、みんなで会を運営しています。
- 組合員の中では、消費者の集まり「地域ブロック」、生産者の集まり「生産者会」があります。

理事会

- 生協組合 熊本のいのちと土を考える会の安定的な経営を任された組織です。
- 理事会は、理事・監事で構成されます。

【理事とは】

役員選考委員会によって消費者と生産者から選ばれます。毎月各1回ずつ行われる理事会と委員会に参加します。

【監事とは】

役員選考委員会によって消費者と生産者から選ばれます。理事会に参加し、理事会が適切に機能しているか、会計が正しく行われているか、帳簿や通帳等を照合し確認します。

地域ブロック（消費者会）

- 組合員の意見を吸い上げ民主的な運営をするために、消費者の小組織として地域ごとにブロックがあります。消費者は必ず地域ブロックに所属します。
- 各地域ブロックからは、それぞれの委員会へ委員を選出します。
- 毎月1回ブロック会を開きます。ブロック会は、各ブロックごとに企画、運営されています。（ランチ会や、会の商品を使った料理会・試食会、勉強会、逆援農など。）

生産者会

- 自然を大切にする有機農業を探究、実践し、安全でおいしい農畜産物の生産に励みます。
- 毎月1回生産者会議を行い、生産者の意見を集約。各委員会や理事会へ伝達し、そこで話し合われたことを生産者会へ報告します。

地域ブロックの区分け

北
エ
リ
ア

大津ブロック〈大津町・西原村〉

武蔵ヶ丘ブロック〈武蔵・弓削・楠〉

杉並木ブロック〈合志市・菊陽町〉

三軒町ブロック〈黒髪・龍田・白川〉

菊池ブロック〈菊池市・合志市（旧西合志）植木・川上・北部東〉

東
エ
リ
ア

秋津ブロック〈秋津・桜木・益城〉

健軍ブロック〈健軍・若葉・泉ヶ丘・東町・尾ノ上〉

帯山ブロック〈帯山〉

御領ブロック〈帯山・山ノ内・月出・長嶺・託麻・西原〉

水前寺ブロック〈託麻原・大江・白山・白川・本荘〉

江津ブロック〈砂取・出水・画図・田迎〉

南
西
エ
リ
ア

清水ブロック〈清水・楠・麻生田・城北・高平台〉

壺川ブロック〈壺川・硯台・城東〉

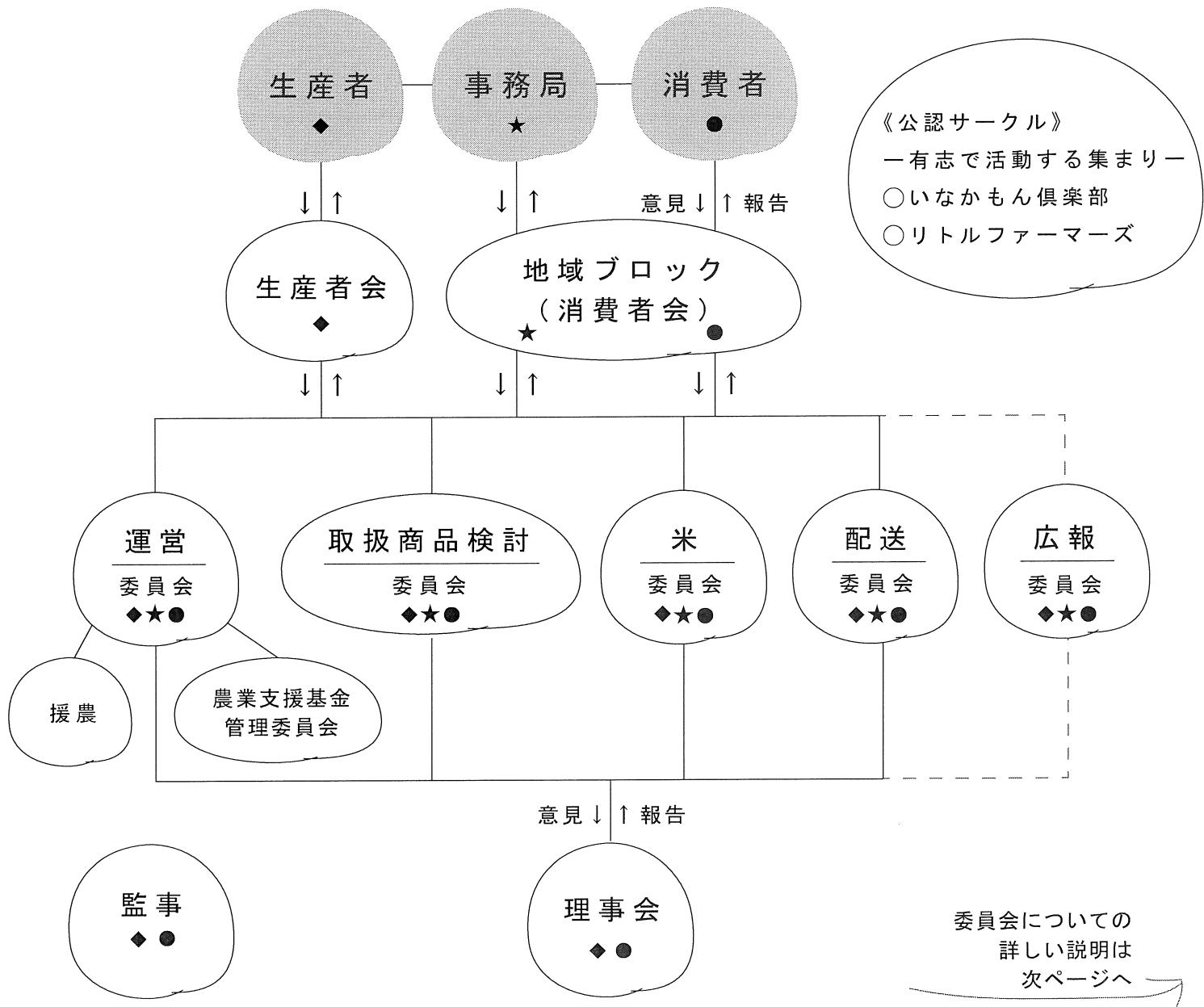
花園ブロック〈花園・池田・城西・西里・一新〉

田崎ブロック〈白山・春竹・呉服・慶徳・向山・古町・春日・白坪・池上・高橋・城山〉

川尻ブロック〈川尻・御幸・日吉・城南・力合・飽田・銭塘・富合・中緑〉

御船ブロック〈御船・嘉島・甲佐〉

組合員の役割



運営委員会

- 会に関わるさまざまなことを考え、共有し、運営する委員会です。
- 消費者と生産者の互いの思いを共有できる仲間を増やし、活動の輪を広げていきます。
- 仲間づくりのために、各ブロック活動の活性化や情報交換、講演会・料理会・生産地訪問・援農などを企画します。

農業支援基金管理委員会

有機農業を支えていく目的で、自然災害への対応や、次世代の就農援助ができるよう立ち上げられました。運営委員会の管轄。

援農

援農の事務のお世話をします。運営委員会の管轄。

取扱商品検討委員会

- 有機農産物や、安心安全な食品の取扱い、供給を検討する委員会です。
- 生産現場や商品の理解を深めるために、産地訪問や業者訪問を行い、組合員に情報を伝えます。
- 生産者と消費者の「提携」を深めるために、「つどい」などのイベントや情報発信を行います。

消費者委員の役割

- 自分のブロックで、毎月1回ブロック会を開きます。
- ブロック会では、消費者の意見や要望を受け取り、委員会へ伝えます。また、委員会からの情報を自分のブロックへ伝えます。そうする事で、組合員ひとりひとりの意見を届けられ、会に反映する事ができ、会の民主的な運営につながります。

米委員会

- 年に一度収穫されるお米の生産を計画し、供給を担当する委員会です。
- 余剰米を活用して加工品などの企画をします。（オリジナル焼酎「いのちの雫」の仕込み体験や、ラベル貼りなど。）
- 月に1回、お米の袋詰め作業があります。
- 生産現場と「年間予約制」の理解を深めるために、年間を通して、田植え、あいがも放鳥、水田視察、稲刈りなどのイベントを企画実施しています。
- 国家の管理下にあった米という農畜産物を、直接消費者に供給するためには、生産者の米を責任持って全部買い上げる必要があり、それが組織化の発端です。

配送委員会

- 組合商品の供給を担当する委員会。
- 配送コースの調整や、配送車のメンテナンスなど、配送に関する業務改善を行います。
- 会発足当初より「顔の見える関係」を大切にするために、生産者も配送しています。配送への理解を深めるために、配送車への「ヨコノリ」（同乗）もできます。
【配送委員とは】
配送者である職員・スタッフ・生産者が所属。消費者の参加について検討中。

広報委員会

- 内外に、会の活動や情報を発信するための委員会。

臨時の委員会について

収穫祭実行委員会

- 年に一度行われる収穫祭のために、理事会により招集される実行委員会。

役員選考委員会

- 2年に一度、2年の任期を終える理事の後任を選考するために、理事長が運営委員会に組織化を要請します。
- 役員選考委員会によって選ばれた新理事・新監事は候補で、総会で承認されます。

出資金とは、加入時に出资方式をお願いしている資金のことです。

生協は、組合員が手を取りあって、自らの願いをかなえる自主的な組織です。

消費者はもとより、生産者、事務局で働く職員やスタッフもまた組合員で、みんなが資金を持ち寄って、利用・運営していることから、みなさんに出資をお願いしています。

出資金は、他団体における入会金や会費、寄付金などとは異なり、生協のあらゆる事業の元手になる資金として運用され、退会時には生協法の定めにより全額払い戻されます。

会の継続的な
経営のためにも、
出資金の増資を
よろしく願います。

「いのちと土」

百科

会でよく使われる用語についてまとめました。「あの言葉も分らない！」がありましたら、随時追加していくので教えてくださいね。

【援農】

文字通り農業援助のこと。生産者の繁忙期に消費者が草むしりや収穫作業などを手伝う。

【逆援農】

考える会独自のもので、生産者がブロック会などで消費者のもとまで出向き、自分の生産活動について話したり、消費者の声を聞いて交流を深めること。

【つどい】

通常総会に次いで大事な行事。考える会における生産者と消費者の「提携」を続けるにあたって、生産現場を知ったり、消費者の要望を聞き取り、作付けに反映させる機会として、取扱商

品検討委員会が担当し、年に1回、2月頃行っている。その時々委員で企画し、ミニ講演会やアンケート、試食会なども行っている。

【事務局】

事務局には、職員・パート・常任理事がおり、商品を選けるために必要な業務を行っている。

【グループ】

生協は協同購入が基本で、組合員2名以上でグループとなり、お届けはその代表となるポストさんへ、グループ全員分の注文の品をお届けする。

表記へG・グループ名

【キャロット】

組合員1名への個別配送（個配）のこと。
表記へキ・キャロット名

【株式会社と生協】

株式会社は株式を購入した株主の出資金をもとに事業を行い、生産した商品を一般の人たちに販売して、そこから利益を生み出し、株主に分配することが目的。

そしてより多くの株式を持つ株主が発言権を持つ。

その株式会社とは大きく異なる生活協同組合は、共通の目的を持った人たちが、その目的を達成するために組織した、相互扶助組織。組合員全員が出資した額に関わりなく、ひとり1票の権利を持ち、組合の運営に参加し、組合の方針を決め、これを実践するという、組合員による経営への直接参加が原則となる。

【予約米】

お米の年間予約制のこと。1995年以前は、お米は国で計画的に生産され、だからこそ全量が国に買取られ、価格も安定的に保証されていた。そうした状況の中で、自分たちの願う無農薬のお米を育ててもらい、売ってもらうには、生産者に国の管理から外れてもらわねばならず、それは生産者にとって安定的な経営を手放す困難な選択だった。そこで、「必ず買取りますから」と約束したことが「予約制」のはじまりと言われている。

ている。

【協力野菜制度】

野菜がたくさん収穫できた時に、生産者からの出荷が過剰になり、野菜ケースに入れられずに行き場のない野菜が出てしまうことがある。そのような時に、余らせてしまう野菜がないように、事前に協力購入の予約をした方に、自動的にお届けするシステム。

【週刊いのちと土の★印】

いのちと土を考える会の生産者の農畜産物や、それを原料に作られたオリジナル商品。

会の年間行事

1月	七草合同配送
2月	つどい
8月	ケース洗い
9月	総会
10月	収穫祭
11月	
12月	年末合同配送

農畜産物 安心のお約束

いのちと土を考える会のオリジナルブランド

会の生産者が「農畜産物 安心のお約束」の決まりのもと育てています。



「正直野菜」 会の生産者の野菜ブランドの登録商標

「ゆうきスター米」 会の生産者が育てるお米

「元気豚」 島川さんの豚肉

農

化学農薬・化学肥料・除草剤を一切使用しません

有機物の肥料を使用し、持続可能で地球にやさしい農業を目指しています。
薬に頼らず、人の手で作物の成長の手助けをしています。
農地は3年以上、化学農薬・化学肥料・除草剤不使用です。

旬を大切に

加温ハウスは使用せずに季節の露地野菜にこだわります。

ケースの野菜や柑橘は 会の生産者の作物で作ります

「誰が育てた野菜かな？」と顔の見える農産物が特徴です。
一部、季節柄ないけれど、使い勝手のよいじゃがいもやたまねぎなどに関しては
信頼のおける産地より有機農産物を取り扱っています。

生産者の産地リレー

熊本県内の生産者の畑の標高差を利用し、産地リレーをしながら
充実した野菜ケースをつくっています。

畜

遺伝子組み換え飼料を使用しません

遺伝子組み換え技術を用いたトウモロコシや大豆などは使いません。
※生後60～70日までの子豚は生育が不安定なため、市販の完全配合飼料を与えています。

抗生剤やホルモン剤など薬を使用しない飼育をします

健康的に飼育することにより、薬に頼らない飼育をしています。
※2023年9月より、豚熱ワクチンの接種が義務づけられています。

独自の精肉所で加工

2018年から事務局に精肉所を設け、お届けしています。

加工食品についての考え方

- 組合員が生産し加工したものを第一に取り扱います。
- 生産者、製造過程、原材料が明らかで製造者または販売店の姿勢が組合の理念と一致するもの。
- 有機、農薬不使用で国産のものを第一とし、次に国産のもの、外国産であっても有機、農薬不使用が明確なもの。
- 食品添加物については、保存料・着色料は不使用、他の添加物も極力使用していないもの。
- 極力、遺伝子組み換えなしの原材料を使用して製造されているもの。

有限会社 グリーンファーム熊本

「グリーンファーム熊本」とは、

生活協同組合「熊本 いのちと土を考える会」が設立された1985年の7年後の1992年に、考える会とは別組織として設立された、有限会社です。

設立の理由は、生活協同組合である「熊本 いのちと土を考える会」では

生協法の決まりで販売する事ができない、県外の個人の方や学校給食、飲食店など、

生協の範囲を超えて、会の農畜産物の流通を担うことを目的に設立されました。

安心安全な有機農畜産物を利用したいレストランやお店屋さん、

こども達が通う、学校や保育園・幼稚園で利用してもらいたい、などなど

組合員さんのつながりで、ご紹介いただけたらと思います。

それぞれの組織で
できること

有限会社
グリーンファーム熊本

生活協同組合
熊本いのちと土を考える会

県内の個人の方

×

○

県外の個人の方

○

×

学校給食・保育園など

○

×

飲食店・法人など

○

×



有限会社 グリーンファーム熊本

〒861-2241 熊本県上益城郡益城町宮園401

Tel/Fax : 096-286-3966

Email : info@syoujiki-yasai.com



公式 LINE



事務所からの商品のお知らせや、イベント案内、生産者のメッセージなどを配信しています。



考える会 援農

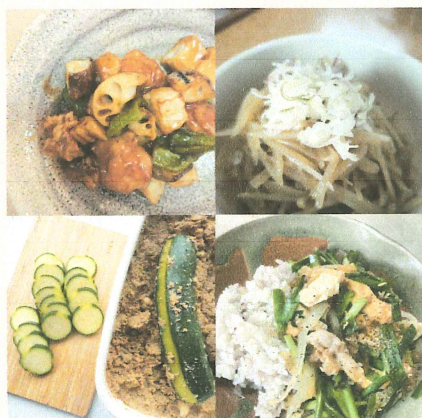


農体験できますよ♪
登録お待ちしております♪



援農の呼びかけのためのオープンチャットです。

考える会 みんなの台所掲示板



会の食材を使ったレシピを、組合員がお互いにシェアしあっています。

リトルファーマーズ



会の畑「であいふれあい畑」で、種まきから収穫、そして食べたり加工したりまでを楽しんでいます。土いじりサークルです。